

盛岡～八戸、直通で相互乗り入れ

いわて銀河鉄道と青い森鉄道

「直通の方が得」とJR出身の経営企画部統括課長

新幹線・並行在来線等対策特別委員会(平良木議員所属)がIGRなどを視察

先月23～24日の二日間にわたって、平良木議員が所属する新幹線・並行在来線等対策特別委員会の一行8名は、青森県八戸市と岩手県盛岡市を訪ね、IGRいわて銀河鉄道などを行政視察してきました。

このうち、盛岡市のいわて銀河鉄道では、開業から10年間の歩みと、現在の経営状態などをつぶさに聞いてきました。



イベントに頼らず、生活路線として

経営の姿勢としては、通勤・通学をメインとした生活路線としての役割を自覚し、地域の学生・生徒、高齢者などにいかに乗ってもらえるかに留意しているかが語られました。

基本的にイベント列車などはやらず、「派手なことはしない」という姿勢です。その工夫として、大学生向けの1年間有効の通学定期券や中学生向けの往復半額切符の発売、それに通院支援などに取り組んでいます。特に通院支援は、「IGR地域医療ライン」として、アテンダ

ントやタクシーとの連携によって、高齢者などが安心して通院できるように工夫しているとのことで、「これこそ鉄道のできる福祉だと考えている」とのことです。

運行は盛岡～八戸で直通運転

朝夕の一部の短距離運行を除くと、運行は基本的には盛岡～八戸間の直通運転です。つまり、「青い森鉄道」との相互乗り入れです。岩手県側は82.0km、青森県側は25.9kmと、運行距離にはかなりの差がありますが、ここでは県境での折り返し運転などはしていません。完全に直通で、乗り換えの手間もありません。

担当課長は、「同じ形式の車両を使った直通の方が得、会社間での費用のやりとりは、乗務員や車両の按分でやればできる」とのことです。直江津～長野間や直江津～富山間も、まったく同じことが言えるのではないのでしょうか。



八戸駅で並ぶ「青い森鉄道」と「IGR」の電車

震災でも力を発揮

この間の大きなできごととして、平成23年度からのJR貨物の鉄道使用料のルールが改善され、収入がかなり増えたことや、東日本大震災で大きな被害を受けたことが紹介されました。

特に震災の折には11カ所の道床崩れなど多数の被害があったにもかかわらず、3月16日には一部で、18日には全線で運転を再開し、同時に被災地への石油輸送にも貢献したとのことで、鉄道の輸送力の大きさと確実さを内外に示しました。

(仮称)厚生産業会館基本構想(案)

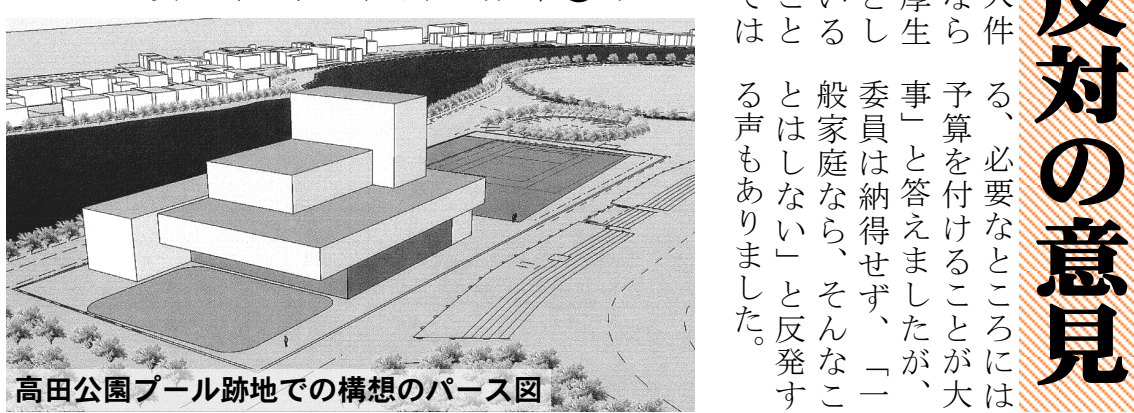
「不適當」と答申

高田区地域協議会

市長は9月24日、高田区地域協議会に対して「(仮称)厚生産業会館基本構想(案)」について諮問しました。これに対して、高田区地域協議会では、10月2日に審議を行い、長時間にわたる議論の末、反対意見が圧倒的多数となり、10月末に「構想案は不適當」とする答申を出すことになりました。

「不適當」とする主な理由としては、財政が厳しい中で建設費や維持管理費が大きな負担になること、建設に関する市民の合意が十分に得られていないこと、施設の内容が十分に練られておらず利用しにくくなりかねないこと、建設地にも問題があることなどがあげられているようです。いずれも、これまでの協議会の調査や市民からの意見などで指摘されてきた視点からの見解であり、協議会としては市民の声をしっかりと反映させたものとなっています。

これを受けて、市長はこういう姿勢で臨むのが、今後鋭く問われます。その後、高田区以外の地域協議会でもこの問題に関しての意見が出されています。柿崎区では、総合事務所の在り方と関連して、(仮称)厚生産業会館建設への意見が出されました。



高田公園プール跡地での構想のパス図

他の区の地域協議会でも反対の意見

委員からは、「人件費を削らなければならぬ」というのに、厚生産業会館を造ろうとしているが、言っていることとやっていることに整合性がないのではないかと高田区の地域協議会では建設に反対の声が出たそうだが、(この動きに)私は大賛成だ」「市長公約の(厚生産業会館)についてはやめるといふ英断が必要だ」との意見が相次ぎました。これらの意見に対して、総務管理部長は、「将来に向かって必要な社会的投資は財政をやりくりしてでもやってみよう」という考えを述べた。

日本共産党上越市議員団ニュース

No. 342 2012年11月4日

連絡先
橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)
上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)
平良木 哲也 090-1808-6919 (上中田)